

国際福祉論			単位数	履修方法	配当学年
			4単位	R	3年以上
科目コード	DH4115	担当教員	赤塚 俊治		



※2017年度より担当教員が変更になりました。教科書・レポート課題も一部変更されています。

■科目の内容

本講座は、国際福祉（国際社会福祉の略語として使用する）の基礎的導入編として位置づけています。国際社会では、国際福祉が重要な役割として期待されています。先進国、開発途上国、後発開発途上国における人々の現状や実態を理解することによって、国際福祉の理論はもとより国際福祉の実践的活動であるODAやNGOの今日的課題についても理解する必要があります。国益優先の時代は終焉を迎えています。国際社会がお互いに国際問題を共有し、児童労働、ストリートチルドレン、路上生活者、人身売買、難民、所得格差、貧困、南北問題など国際福祉分野に関する問題は山積しています。こうした国際問題に対して、国際社会は国際支援、国際協力など国際福祉を実践的に実行することによって、問題解決に向けた施策が必要となります。国際福祉を学ぶ基本は、理論学習はもとより、世界で生起している事象を踏まえながら、国際福祉の意義や役割及び機能について自分なりに論証することが重要となります。

■到達目標

- 1) 国際福祉には、教育分野や医療分野も含まれるが、世界各国で生起している国際福祉の対象になる人々の問題点や課題について説明することができる。
- 2) 世界各国に共通した社会福祉の特徴や問題点及び課題を広く理解することで、国際福祉の役割や機能について具体的な解決方法を説明することができる。
- 3) 国際福祉分野で活躍する人材になることができる。

■教科書

仲村優一ほか編著『グローバル化と国際社会福祉』中央法規出版、2002年

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	国際福祉とは	国際福祉の3概念を理解する。 キーワード：国際、福祉、国際社会福祉、社会福祉国際比較、世界福祉	国際福祉と呼ばれる分野は3つの研究視点に分けることができます。これを整理した上で具体的な内容に取り組むことで理解しやすくなるでしょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
2	グローバリゼーションとは	グローバリゼーションとは何かを理解する。 キーワード：グローバリゼーション、国際化、冷戦、アメリカ化	グローバリゼーションはとても身近になった言葉ですが、曖昧でわかりにくい概念です。身の回りで起きていることでグローバリゼーションと関連していることをいくつか挙げられるでしょうか。
3	グローバリゼーション時代の福祉	冷戦終結後の1990年代から今世紀にかけて大きく変わってきた世界における福祉分野の現状を理解する。 キーワード：地域紛争、貧困、格差、国際機関、地域的枠組	冷戦後のグローバリゼーション時代到来とともに、福祉分野も大きな変動を余儀なくされました。大きな枠組みからこれを理解しましょう。
4	国際福祉と国家福祉	国家内の社会福祉政策と国際福祉との関連を理解する。 キーワード：社会福祉、国家福祉、国際福祉、選別主義、普遍主義、福祉国家	国家福祉の諸理論を整理し、さまざまな視点から分析することによって国家福祉の現状を理解しましょう。
5	国際福祉の現状と展望	国際社会が現在いかなる問題を抱えているかを理解する。 キーワード：国家、国際機関、国際NGO、NPO、ボランティア団体	国家をはじめとするさまざまな行為主体が多岐にわたる国際福祉問題に取り組んでいます。現在どのような問題が重要になっているのか理解しましょう。
6	アジアにおける福祉	アジアにおける国際福祉の課題について理解する。 キーワード：アジア、多様性、制度（ガバナンス）	アジアは非常に広く、多様な地域です。国境を越えてそこに存在する深刻な問題について理解しましょう。
7	アジアの貧困問題	アジアにおいてとくに深刻な貧困・格差の問題について理解する。 キーワード：貧困、格差、植民地支配、多国籍企業	グローバリゼーションの進展に伴い、アジアにおける貧困・格差の問題は深刻化している現状を理解しましょう。
8	アジアの環境問題	アジアの環境問題について多角的に視る。 キーワード：貧困、環境、人口、エネルギー、女性	アジアの貧困問題と環境破壊の問題は、個別に解決できるものではない、複雑に関連し増幅し合う複合的な問題であることを理解しましょう。
9	アジアの児童労働問題	アジアの児童労働問題について理解する。 キーワード：貧困、格差、ストリートチルドレン、多国籍企業、フェアトレード	アジアにおける児童労働問題の歴史的経緯と現代の市場主義的資本主義構造との関連を理解し、解決に向けての方策について考察しましょう。
10	国際福祉システム	国際福祉システムのあり方について考察する。 キーワード：国際福祉、人間福祉、システム	国家の枠を超えた国際福祉システムのあり方について、政治・経済・社会・文化という4つの視覚から、将来あるべき福祉世界の実現を考察しましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
11	国際機関と国際福祉	国際連合をはじめとする国際機関の役割について理解する。 キーワード：国際機関、国際連合、経済開発、社会開発、人間開発	国際連合をはじめとする国際機関が第2次世界大戦後に果たしてきた役割および、経済開発から社会開発、さらに人間開発への流れについて理解しましょう。
12	国際協力と国際福祉	国際協力の歴史的発展について理解する。 キーワード：国際協力、国連開発の10年、南北格差	国際協力の歴史的発展過程を学び、戦後大きな問題となった南北格差の問題解決に向けての取り組みとその結果および課題について理解しましょう。
13	国際福祉における日本の役割 ①	日本のODAの現状と課題を理解する。 キーワード：ODA、国際協力機構、ひも付き援助、要請主義	日本政府が行ってきた政府開発援助（ODA）の果たしてきた役割を学び、今後の課題について考察しましょう。
14	国際福祉における日本の役割 ②	日本のNGOの現状と課題を理解する。 キーワード：NGO、顔の見える援助、政策提言機能	日本の非政府組織（NGO）が果たしてきた役割を理解し、ODAとの相互補完関係および今後の課題について考えましょう。
15	まとめ	国際福祉分野において私たち一人ひとりができることについて考察する。 キーワード：グローバリゼーション、国際福祉	グローバリゼーションが進む国際社会における国際福祉のあり方を整理し、一人ひとりがいかにして具体的な事例における実践的な行動をすべきかについて考えましょう。

■レポート課題

1 単位め	「国際福祉」の理念について論じてください。
2 単位め	グローバリゼーションと国際福祉について論じてください。
3 単位め	アジアにおける国際福祉について考察してください。
4 単位め	国際福祉分野において日本が果たすべき役割について論考してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2016年度以前履修登録者) 2017年4月よりレポート課題の1単位めが変更になりました。『レポート課題集2016』記載の課題でも2018年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

**1 単位め
アドバイス** 国際福祉は、国際社会の福祉という意味を持ち、世界的空間で考えられるべき福祉と解釈してよく、全人類の幸福及び全人類のよりよい生活を追及する学問として、国際福祉の分野があります。国際福祉の捉え方には、多面的な視点がありますが、それを踏まえて、「国際福祉」の理念を教科書に書かれている文章を理解して論述してください。なお、国際福祉研究者の代表的な人物としてミュルダールとロストウを紹介します。

○ミュルダール (Myrdal, K. G. スウェーデンの経済学者)

南北問題や福祉社会論について、国際的視野から発言している。『福祉国家を越えて』(1960)『豊かさへの挑戦』(1962)

「世界の福祉を増進させるためには、福祉国家を越えて世界を福祉社会群に分けることを提唱した。そして先進国社会群が開発途上国社会群を援助することによって、世界の福祉は向上すると説いた。」ミュルダールの福祉思想には、ヨーロッパ思想の優位性が読み取れる。

○ロストウ (Rostow, W. W. アメリカの経済学者) 『経済成長の諸段階』(1960)

経済成長論を基礎にした発展段階説を展開し、近代化論＝産業化論の代表的論者。

「思想よりも経済成長の必要性を説いた。開発途上国の人々の生活が質的に向上するためには、農業基盤を中心とする伝統的社会から離陸して、工業化された近代化への移行が必要と主張した。また、工業化による経済開発を促進し国民生活を向上させるためには、近代的な機械や設備に対応しうる教育を国民全体に行う必要があると説いた。」

2 単位め
アドバイス

(1)『グローバル化と国際社会福祉』第1章を読んでください。(2)昨今のグローバル化(グローバル化、地球規模化)について説明し、(3)そこに起きている具体的事例(例えば地域紛争や飢餓、国際経済協力など)をひとつ検証しながら、(4)国際福祉と国家との関連について論じてください。

3 単位め
アドバイス

『グローバル化と国際社会福祉』第3章および第4章を読み、アジアの発展途上国にある深刻な社会問題をひとつ題材として、その解決策について考察してください。

4 単位め
アドバイス

『グローバル化と国際社会福祉』第5章および第6章を読み、国際福祉分野において日本が果たすべき役割についてまとめてください。

■レポート 評価基準

- (1) 設問に答えているか(書いていくうちに話がそれないこと)。
- (2) 筋が通っているか(一貫した論理・話の最初と最後が矛盾しないこと)。
- (3) 結論・主張がしっかりしているか(自分の持っている考えを伝えること)。

レポートとは小論文です。字数制限もあることなので、書き始める前に以上の点を踏まえながらレポートの構成、アウトラインをまず作成し、たとえば序論・本論・結論という流れをまず作ることが必要です。

■科目修了試験 評価基準

- ・ 出題された設問の内容についてきちんと理解しこれに答えることができるか。
- ・ 用語について一般的な基本事項が理解されているか。
- ・ 解答は筋が通っているか、一貫した論理構成であること。

・結論において自分が持っている考えをしっかりと主張できているか。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「基礎的知識」「レポート作成力」「創造的思考力」を身につけてほしい。

■参考図書

- 1) 赤塚俊治 「第3章第3節 フィリピンの障害者問題」 谷勝英編『現代の国際福祉』中央法規、1991年
- 2) 赤塚俊治 「II章5 シンガポール」 小嶋蓉子・岡田徹編『世界の社会福祉』学苑社、1994年
- 3) ジェームズ・ミッジリィ著『国際社会福祉論』中央法規出版、1999年
- 4) 川村匡由編著『国際社会福祉論』ミネルヴァ書房、2004年
- 5) その他赤塚俊治著の国際福祉に関する論文。『東北福祉大学研究紀要』など。